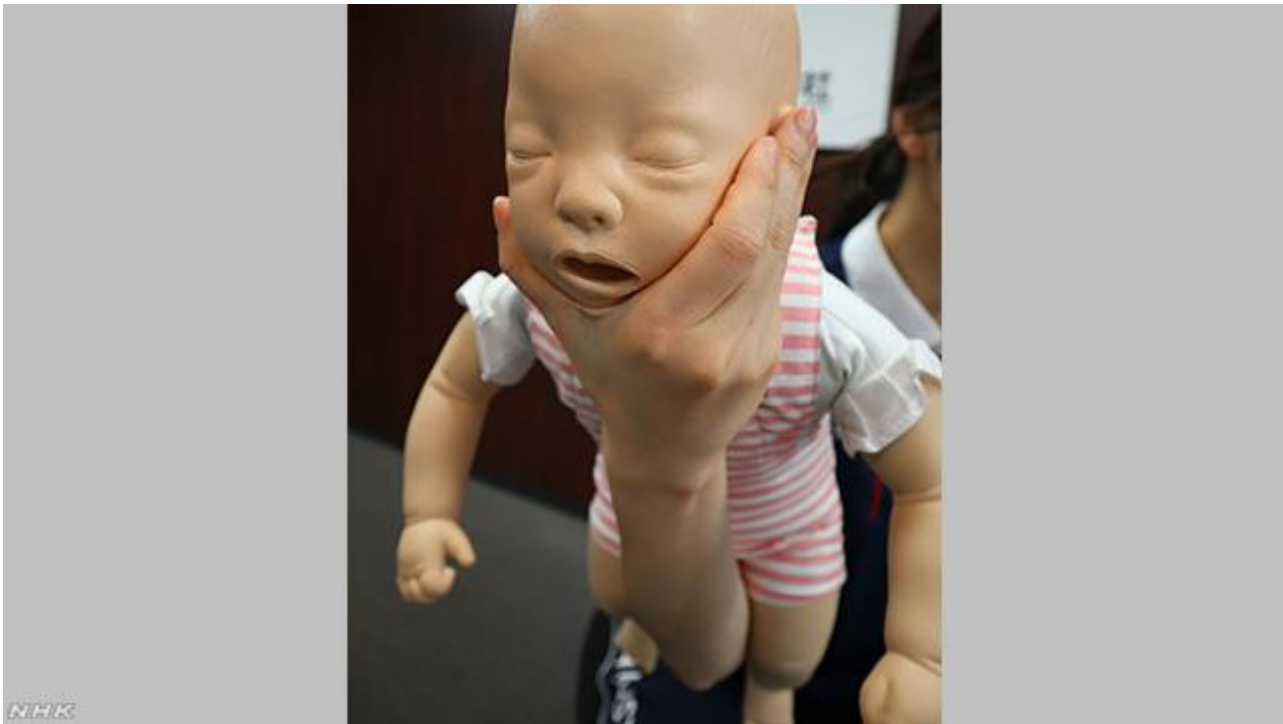


<喉に物を詰まらせた場合の対処法>

(1)小児の場合

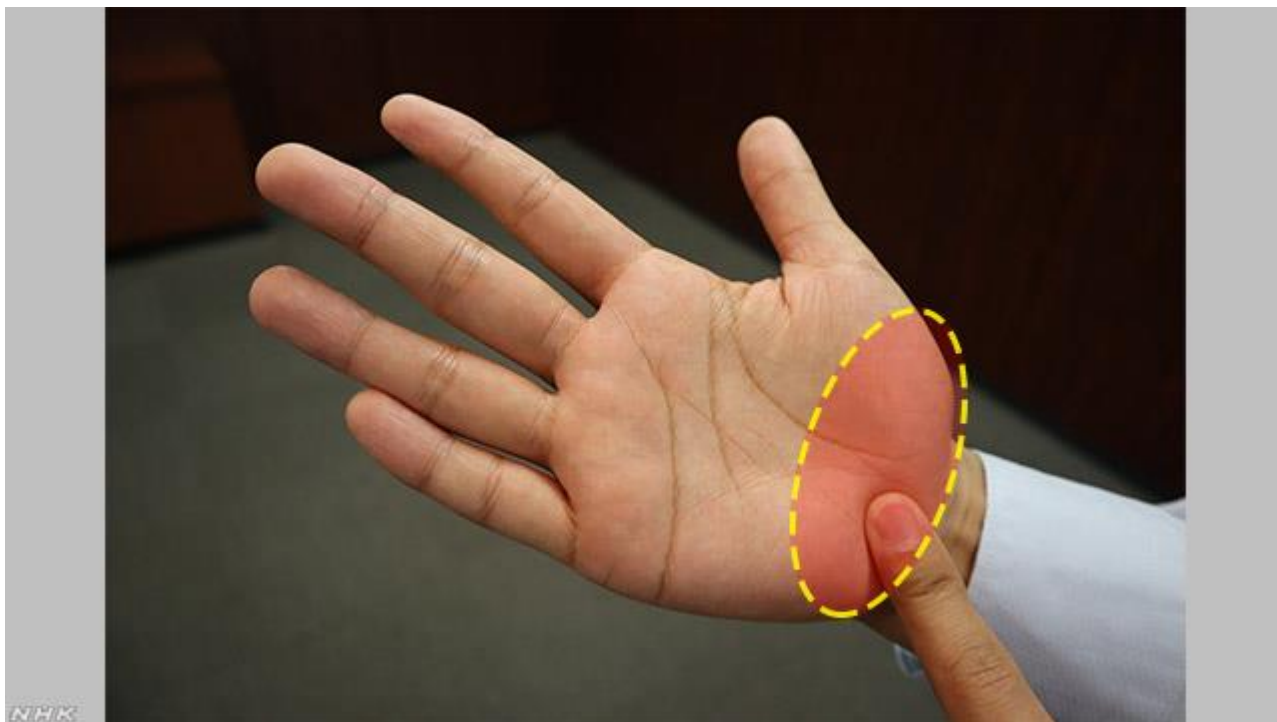
①背部叩打法



まず背部叩打法です。片手で乳児のあごを包むようにしっかり持ち、



乳児をうつぶせにして太ももの上に寝かせます



そして、反対の手のひらの下側の少し膨らんでいるあたり「手掌基部」で肩甲骨の間をたたきます。

頭を傷つけないよう指を曲げることがポイントです。乳児は内臓が弱いのであまり強くたたかず4回から5回試して異物が出てこなければ胸部突き上げ法に移ります。

②胸部突き上げ法



空いている手で乳児の頭を抑えてひっくり返し太ももの上で仰向けに寝かせます。乳児の足は腕をまたぐようにして落ちるのを防ぎます。



乳児の胸を押すのは中指と薬指の2本。押す位置は、乳頭と乳頭を結ぶ線の中央の少し下です。

体の3分の1が沈むほどの少し強めの力で4回から5回素早く押します。肺にある空気を瞬間的に圧迫して押しだし、その力で異物を吐き出させます。

口の中に異物が見えてきたらたたくのをやめて指で取り出します。異物が出るまで2つの方法を交互に行うということです。

(2) 大人の場合

乳児だけではなく幼児や大人が、例えば餅などをのどに詰まらせた時の方法です。

大人の場合は、僅かでも隙間が出来れば呼吸が復活、咳き込んで詰まったものを出すことが出来ます。

大人の場合は、多少乱暴で不潔かも知れませんが、最終手段として、掃除機を口の中に突っ込んで吸引させる方法もあります。

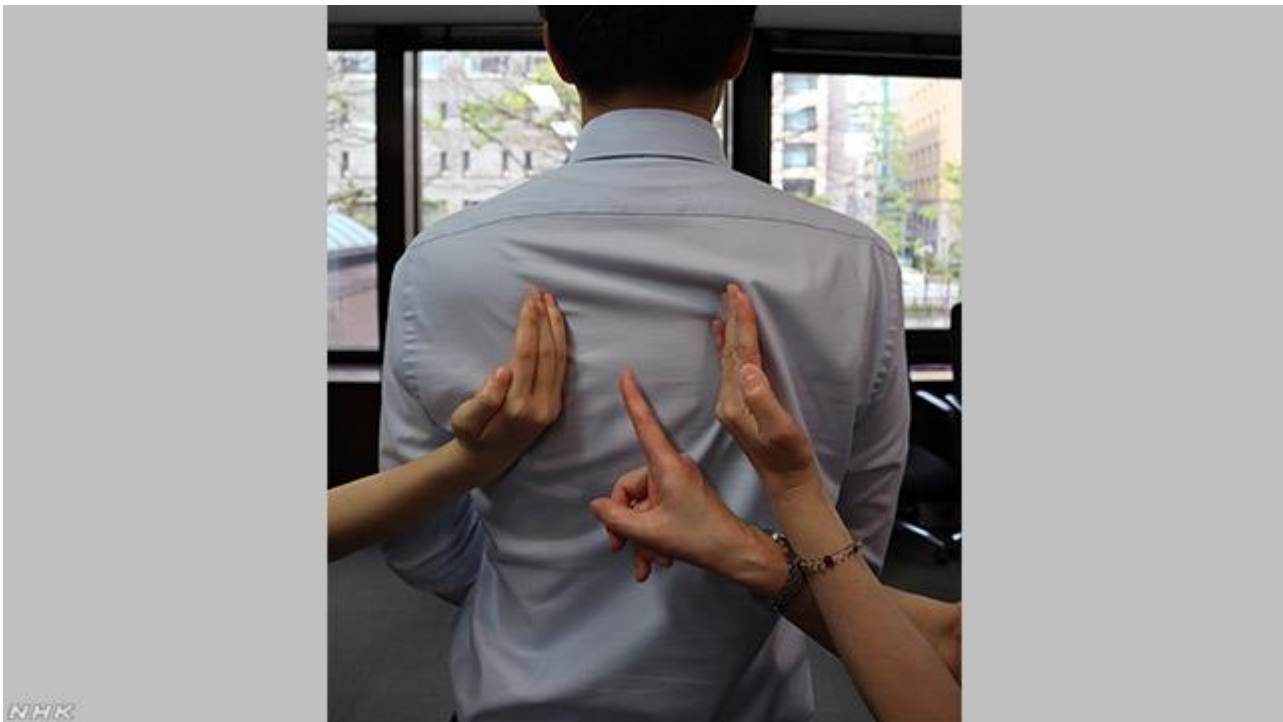
一つの方法で駄目だったら、併用すると良いでしょう。

体の小さなお子さんの場合には、口の中を痛めやすく危険ですので、掃除機は使わないように願います。

① 背部叩打法



大人への背部叩打法です。苦しんでいる人の横に立ち片手で胸部を支えます。おじぎをするようにできるだけ低く頭を下げてもらいます。倒れるのを防ぐために片足を患者の前に置くのがポイントです。



たたき位置は、やはり肩甲骨と肩甲骨の間。手のひらの下側で体に響くほどの力でドンドンとたたきます。5回ほどたたいてダメなら「腹部突き上げ法」に変えます。“胸部”ではなく“腹部”です。

②腹部突き上げ法



患者を後ろから抱くような形で腹部に腕を回します。



片方の手で拳を作り、へそのすぐ上の位置に当てます。

この時、親指が内側で、もう片方の手のひらでにぎります。



締め上げ前



締め上げ後

NHK

両腕を引き締めて少し上に向かって患者の体を突き上げます。瞬間的に素早く締め上げるように息が“うっ”と詰まる強さです。こちらも5回ほど。2つの方法を繰り返し行います。大切なのは諦めないこと。

日本赤十字社の救護・福祉部の大西浩子さんは「たとえ針の穴程度でも隙間ができれば息が通る。諦めずに続けてほしい」と話していました。

近くにいる誰かが救う



「子どもがのどにものを詰ませたらどうしますか？」と街で聞いたところ、子どもが産まれるタイミングで、夫婦で胸部突き上げ法などを学んだという女性がいました。それでもいざという時に対処できるかは不安で「子どもだけでなく大人もいつそうなるかもしれない。忘れないように繰り返し学びたい」と話していました。

今、119番通報をしてから救急車が到着するまでの時間は8分30秒ほど。息ができなくなれば数分で体に影響が出てしまいます。その間に命をつなぐのは近くにいる人しかいません。

以上、日本赤十字社の提供でした。